

COG2025 応募内容確認書

ID	53-26-3
自治体名	広島県
自治体提示地域課題	宮島・原爆ドーム以外にも、素晴らしい観光地がたくさんある！
チーム名	福山大学都市計画学研究室
アイデア名	乗ってみな？バス推す福山
チーム属性	学生：学生（ ）だけで構成されたチーム
チームメンバー数	5
代表者	村上 真矢
メンバー（公開）	村上 真矢, 一木 唯人, 転堂 夏妃, 東 佳希, 水江 健斗

【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。

アイデア提案書

自治体提示の地域課題

「宮島・原爆ドーム以外にも、素晴らしい観光地がたくさんある！！」

アイデア名

乗ってみな？バス推す福山
－移動体験から再発見する、地域の魅力－

応募者情報

チーム名	福山大学都市計画学研究室
チーム属性	学生
チームメンバー数	6名
自治体名	広島県(福山市)
代表者氏名	村上真矢

1. アイデアの全体像 (What)

■ 概要

本提案は、福山市を対象に、公共交通（路線バス）を切り口として地域の魅力を再編集し、市民および来訪者の行動変容を促す取組である。

広島県には宮島・原爆ドーム以外にも多様な観光資源が存在するが、それらが十分に認知・活用されていない要因の一つとして、「公共交通でどのように行けるのかが直感的に想像しづらい」という移動面の課題がある。

福山市では特に車依存が高く、バスは「使い方が分からない」「自分には関係ない」と認識されがちである。その結果、バスでアクセス可能な地域資源や日常の延長線上にある観光的魅力が、選択肢として認識されていない。

本取組では、DoboXの人口・交通データを用いて福山市内の移動実態と潜在的なバス需要を可視化し、その分析結果をもとに若年層や非利用者に向けたPR動画を制作・発信する。

単なる観光地紹介ではなく、「バスに乗ることで見える風景」や「日常と観光がつながる移動体験」を提示することで、地域の魅力への到達可能性を高めることを目的とする。

アイデア提案書

Who (実施主体)

大学生チームが中心となり、福山市および中国バスと連携して実施する。

Who (対象・受益者)

- ・福山市民（特に若年層・これまでバスを利用してこなかった層）
- ・福山市を訪れる観光客・来訪者

What (何をするか)

DoboX データを活用して公共交通の利用実態と潜在需要を分析し、その結果をもとに、バス利用を促進する PR 動画（SNS 用・駅サイネージ用）を制作・発信する。

When (いつ)

2025 年度を想定し、データ分析から動画公開までを段階的に実施する。

Where (どこで)

福山市内（福山駅周辺、主要バス路線沿線、生活拠点および観光拠点）

How (どのように)

データ分析 → 課題抽出 → 映像によるコミュニケーション設計 → 行政・事業者と連携した実装、というプロセスを進める。

Analize

バスの利用状況の分析

通学等では約三割の人が公共交通機関を利用有効な公共交通の活性化を行うために、バス利用者の状況や、路線と都市構造の関係を Dobox を用いたデータによって、明らかにする。

注目した内容；主要路線である中国バス・井笠バス・トモテツバスのデータを利用する

- | | | | |
|------|-------------------|---|---------------|
| 利用機会 | どこをどの頻度で走っているのか把握 | ▶ | 移動需要を発見する |
| 位置関係 | バス停からの徒歩圏内の地域を抽出 | ▶ | 利用機会を捉える |
| 人口分布 | バス路線と人口分布を確認 | ▶ | 潜在需要のある地域を可視化 |

アイデア提案書

ACTION



福山市、中国バスとの取り組み

福山市では、バス路線の増便、100円2ウィークスなど、バス利用促進を目的とした活性化施策を行われている。しかし、特に若い世代を中心に、これらの取り組みが十分に認知されていない現状がある。私たち大学生は、公共交通を利用する立場であり、同時に SNS や動画に親しんだ世代であることから、同世代を起点に幅広い層へバランスの魅力や施策を発信することで、利用のきっかけを創出できると考えた。そこで、情報を直感的に伝えられる動画に着目し、福山市および中国バスの協力を得て、実際のバスを使用した動画制作を行った。車内の様子や移動の雰囲気をリアルに伝えることで、バスをより身近に感じてもらい、認知拡大と利用促進につなげることを目指した。

2. アイデアの理由 (Why)

■ 課題背景

福山市では、車依存の進行により公共交通、とりわけ路線バスの利用率が低下している。

その結果、「どこに行くにも車が前提」という意識が定着し、公共交通を使って移動するという選択肢自体が日常から失われつつある。

この状況は、広島県が掲げる「宮島・原爆ドーム以外の観光地の魅力発信」という課題とも密接に関係している。

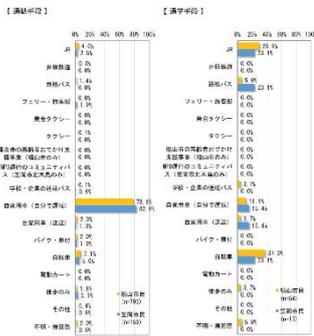
観光地や地域資源が存在していても、「どうやって行くのか」「自分でも行けそうか」という移動のイメージが持てなければ、実際の訪問にはつながらない。

福山市は、地方都市における

「観光資源はあるが、公共交通を使った訪問イメージが育っていない」という課題が集約されたモデルケースである、ここで得られる知見は県内他地域への展開可能性を持つ。

アイデア提案書

■裏付け



〈福山市の公共交通機関の利用状況〉

現在、福山市では通勤、通学手段として右記の図の状態となっている。通学では、自転車が約4割、電車が約3割と公共交通機関を利用している人が少ないことが分かる。このことから、公共交通機関が日常的にあまり使われていないことを示している。

<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/uploaded/attachment/274151.pdf>

■データによる根拠

本取組では、以下の DoboX データを、QGIS を用いて分析した。

- 広島県・都市計画区域情報_性別年齢別人口_福山市 (2020)
- 広島県 DoboX バスロケーション関連データ (Bus-Vision)

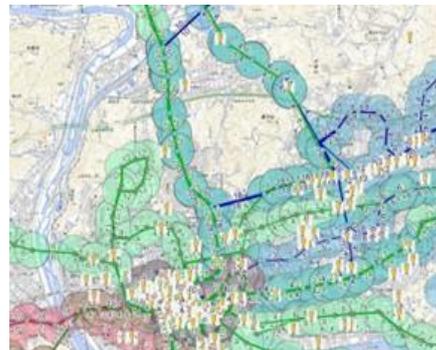
これらの分析から、

- 若年層人口が集中しているエリアが存在する一方で、バス利用が十分に行われていない。
- 時間帯や路線によっては、現在の利用実績以上の潜在的な移動需要が見込まれるといった傾向が確認できた。

人口分布とバス路線



バス停と徒歩圏内の施設



■なぜ「映像」なのか

従来の公共交通 PR は、時刻表や路線図など情報提供型の手法が中心であり、非利用者にとって心理的ハードルが高い。

本取組では、データ分析によって得られた課題意識を、「感情的に理解できる形」で伝えるため、映像によるコミュニケーションを採用した。

映像を通じて、「バスにどう乗るのか」「乗った先にどんな景色や体験があるのか」を具体的に示すことで、公共交通を単なる移動手段ではなく、地域を楽しむための入口として再定義する。

アイデア提案書

3. 実現までの流れ (How)

■ 実施体制

- 大学生チーム：データ分析、企画立案、動画撮影・編集
- 福山市：施策連携、広報協力、行政視点での助言
- 中国バス：路線・運行情報の提供、現場協力

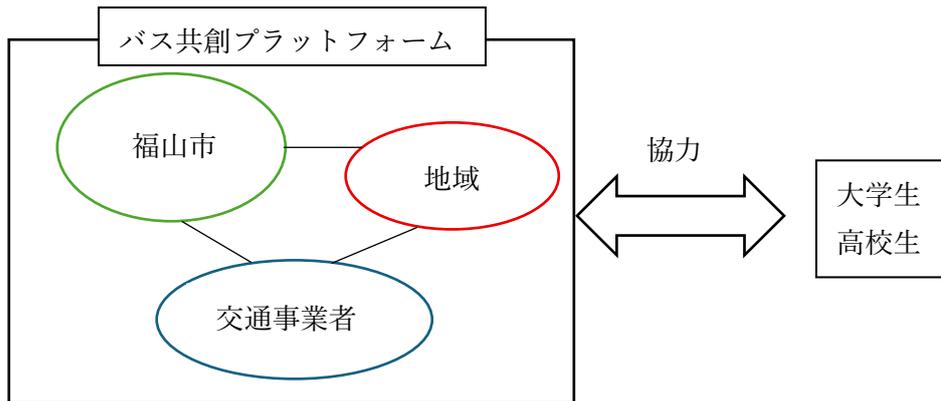


図 実施する主体

■ 必要資源

- 人：学生メンバー、行政・事業者担当者
- モノ：スマートフォン、PC、動画編集ソフト、撮影機材
- カネ：制作費（既存設備・リソース活用により最小限）

■ 実施プロセス

1. データ分析

DoboX データを用いて、人口構成・移動傾向・バス運行状況を可視化

2. 課題抽出

潜在需要が高いエリア、時間帯、ターゲット層を整理

3. 映像企画・制作

「バスの乗り方」「キャンペーン紹介」「移動体験」をテーマに動画を制作

4. 発信・実装

福山市公式 SNS、福山駅サイネージ等で公開

5. 効果検証

視聴数や反応をもとに、今後の施策立案や展開に活用

アイデア提案書

■ 実現可能性と発展性

本取組は既に PR 動画の撮影・編集が進行しており、2025 年 12 月 8 日から駅前のサイネージで放映されている。

また、本手法は福山市に限らず、広島県内の他地域においても「公共交通 × 観光」という形で横展開が可能であり、県全体の観光動線の再構築にも寄与する。

■ 福山市の方との話を通じて



今回実践するにあたって、福山市のバスの PR に向け、福山市の方と意見を出し合い、動画を作成した。現在は、福山駅南口のサイネージでその動画が流れており、PR に貢献することができた。これまでに大学の授業でグループ課題など内部の人と協力する授業はあったが、外部の方と連携しながら進める家に県は初めてだったため、私たちにとって良い経験となった。

4. まとめ

本提案は、公共交通を切り口に、地域の魅力への「辿り着き方」を再設計する取組である。データと映像を組み合わせることで、市民の意識変容と行動変容を促し、広島県が抱える観光課題に対して実装可能で持続性のある解決策を提示する。